

J-POWERグループの沿革

J-POWERグループは、戦後の日本の電力不足を克服するため1952年に政府により設立されて以来、水力発電および火力発電による電力の卸売事業を展開するとともに、日本各地を結ぶ基幹送電線による電力の託送事業を行い、全国大の電力の安定供給に貢献してきました。

J-POWERグループは企業理念に基づき、それぞれの時代で求められる電源を、環境負荷を可能な限り低減するための最先端技術で開発
2000年以降、海外事業、再生可能エネルギーの開発に参入、事業フィールドを拡大

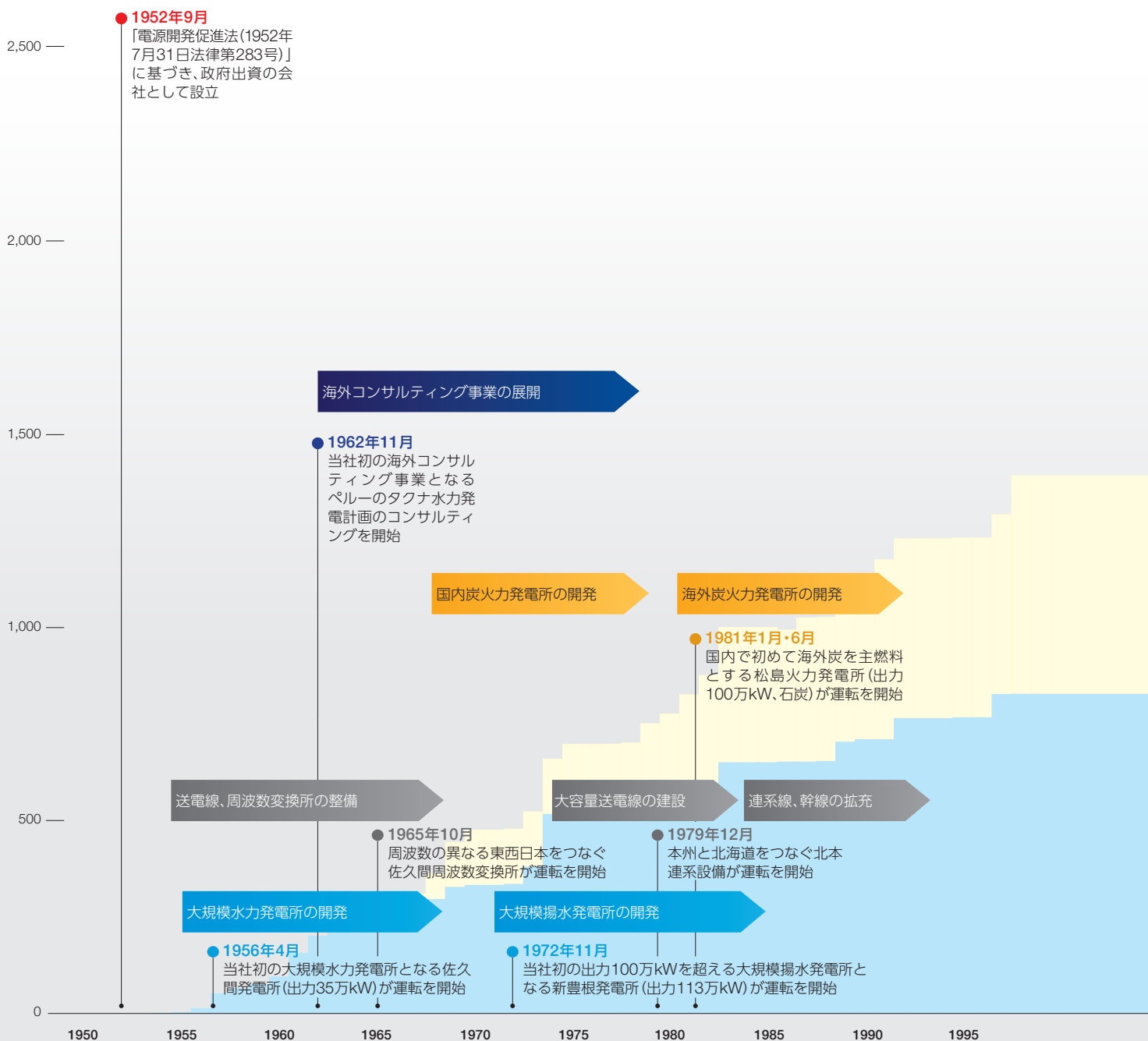
時代の要請

戦後電力不足の解消

オイルショックを契機とした電源の多様化

発電設備容量の推移

(万kW)



2004年には、東京証券取引所第一部に上場して完全民営化し、成長が見込まれる海外での発電事業や、風力発電、地熱発電といった再生可能エネルギーの開発など、事業のフィールドを拡大してきました。

これまでJ-POWERグループは、時代ごとのさまざまなエネルギーに関する課題解決に事業を通じて貢献するとともに、世の中の変化に対応しながら事業を拡大し、成長し続けています。日本、そして世界で培った技術と実績を活かし、「エネルギーと環境の共生」を基調として、サステナブルな成長を目指していきます。

気候変動問題への対応

■ 国内電気事業 (水力) ■ 国内電気事業 (火力) ■ 海外発電事業 ■ 国内電気事業 (風力)
 (注) 連結子会社および持分法適用会社の設備を含む
 合計出力は各プロジェクトの総出力に当社の持分比率を乗じて算出

